

インターバンクの声（2016年1月26日）

週後半はさておき、週前半くらいは落ち着きを見せるのではないかと期待した金融市場だが、そう簡単には原油価格や株式市場の乱高下は止まってくれないようだ。金曜日には1割近く反発したニューヨーク原油先物相場は、昨夜は国際市場の供給過剰感による懸念から早くも6%超の下落に転じた。簡単に世界経済の先行き不安が戻ってしまい、欧州株の下落に始まって、米国株もニューヨーク・ダウが200ドル超下げて引けた。よくドル円が118円台を保ったままニューヨーク市場を終れたものだ。日本時間で木曜日の未明の発表になる米連邦公開市場委員会（FOMC）後は、今年中に最大4回の利上げ予想が、もはや3回ないし2回になるとの見方が大勢で、中には今後の利上げの可能性が消えたとの見方まであるようだ。円の買戻し圧力が小さいのは、海外勢を中心にした日銀による追加緩和への期待が大きくなっていることも影響しているらしい。日本勢は据え置きと見ている人が多いようだが、緩和策を講じて来なければ海外勢による失望のドル売りになる公算が高いはずだ。今日も118円台後半まで戻れば、ドルを売りたい人が大勢いそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。